

第4節 学校教育施設

<学校教育施設の延床面積の削減目標>

分類	現在の面積 (㎡)	今後の面積 (㎡)	増減面積 (㎡)	増減率 (%)
小学校	103,388.0	78,599.0	▲ 24,789.0	▲ 24.0
中学校	60,037.1	47,837.6	▲ 12,199.5	▲ 20.3
その他学校教育施設	3,302.7	6,224.1	2,921.4	88.5
合計	166,727.8	132,660.7	▲ 34,067.1	▲ 20.4

第二学校給食センター整備分が増となるものの、小学校と中学校の減により、20.4%の削減を目指します。

4-1. 小学校

(1) 施設概要

□ 市内には19校が立地しており、うち7校は放課後児童クラブと複合しています。また、16校を災害時の避難所に位置づけています。

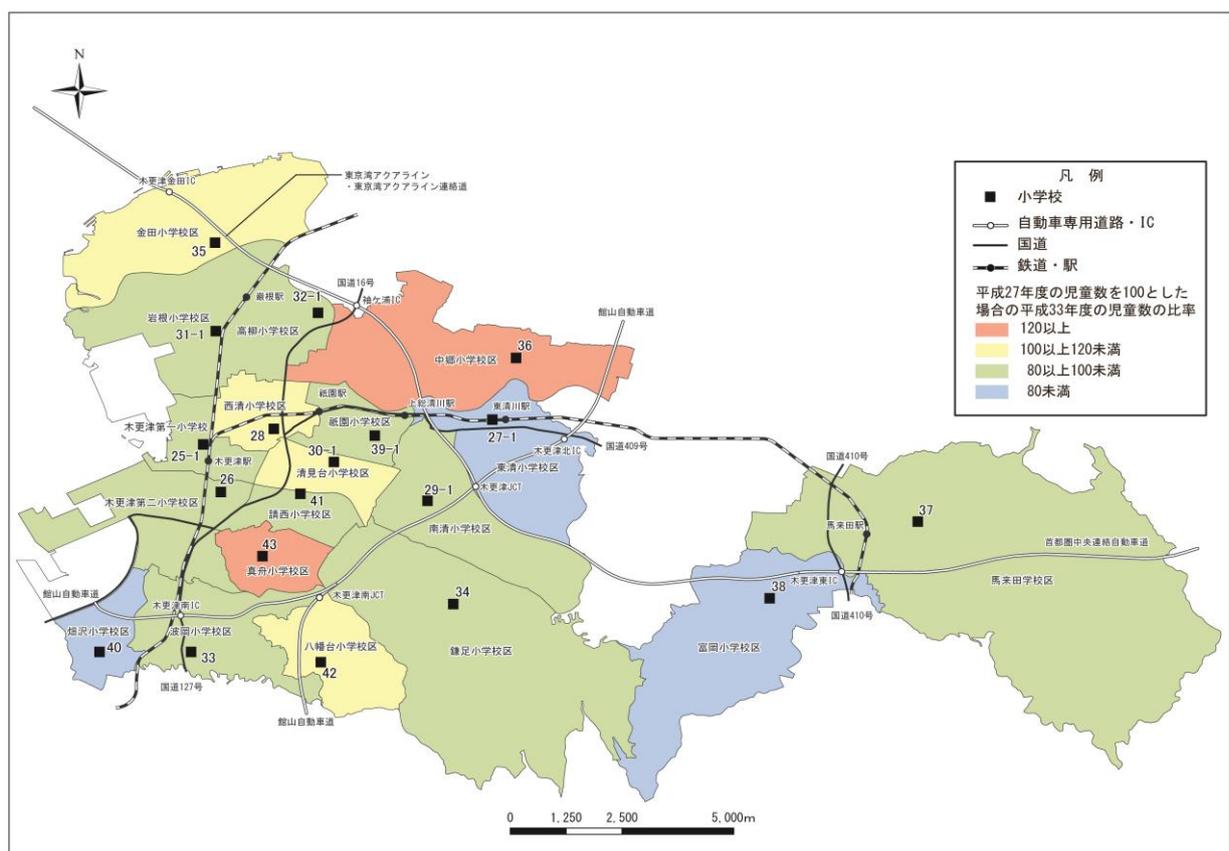
図表2-35 小学校の一覧

施設No.	施設名	所在	避難場所指定	延床面積(㎡)		竣工年度	築年数(年)	構造	耐震改修	備考
					施設分					
25-1	木更津第一小学校	中央1-11-1	避難所	6,853.0	6,577.0	2009	7	RC造	不要	社会館学童れんこんクラブと複合
26	木更津第二小学校	文京5-6-24	避難所	5,600.0	—	1969	47	RC造	実施済	
27-1	東清小学校	菅生114	避難所	3,690.8	3,629.4	1980	36	RC造	実施済	東清小学童保育所社会館サンシャインクラブ(平成27年4月開設)と複合
28	西清小学校	長須賀2445	避難所	4,499.9	—	1967	49	RC造	実施済	
29-1	南清小学校	ほたる野3-5	避難所	6,237.0	6,059.4	2012	4	RC造	不要	学童クラブ南清キッズと複合
30-1	清見台小学校	清見台南1-15-1	避難所	7,080.8	6,943.4	1971	45	RC造	実施済	ひまわりクラブと複合
31-1	岩根小学校	西岩根8-1	避難所	6,394.7	6,333.7	1967	49	RC造	実施済	第二なのはなクラブと複合
32-1	高柳小学校	高柳5932	避難所	6,966.9	6,906.9	1971	45	RC造	実施済	学童クラブゆ・めと複合
33	波岡小学校	畑沢1270	指定なし	4,503.1	—	1972	44	RC造	実施済	
34	鎌足小学校	矢那609	指定なし	2,960.7	—	1987	29	RC造	不要	

※表中の「施設分」は、本項の用途分類で使用する専有面積分のみを掲載しています。

施設 No.	施設名	所在	避難場所 指定	延床面積 (㎡)		竣工 年度	築年数 (年)	構造	耐震改修	備考
					施設分					
35	金田小学校	中島2931	避難所	3,232.7	—	1964	52	RC造	実施済	
36	中郷小学校	井尻789	指定なし	2,437.5	—	1967	49	RC造	必要(予定なし)	
37	馬来田小学校	真里谷518	避難所	3,591.4	—	1979	37	RC造	実施済	
38	富岡小学校	下郡1886	避難所	2,739.7	—	1981	35	RC造	不要	
39-1	祇園小学校	清川1-1-1	避難所	9,079.6	8,968.3	1975	41	RC造	実施済	祇園なかよし学童 クラブと複合
40	畑沢小学校	畑沢南2-16-1	避難所	6,956.6	—	1978	38	RC造	実施済	
41	請西小学校	請西2-8-1	避難所	6,793.7	—	1978	38	RC造	実施済	
42	八幡台小学校	八幡台4-5-1	避難所	6,582.3	—	1980	36	RC造	実施済	
43	真舟小学校	真舟2-6-1	避難所	8,072.0	—	2013	3	S造	不要	

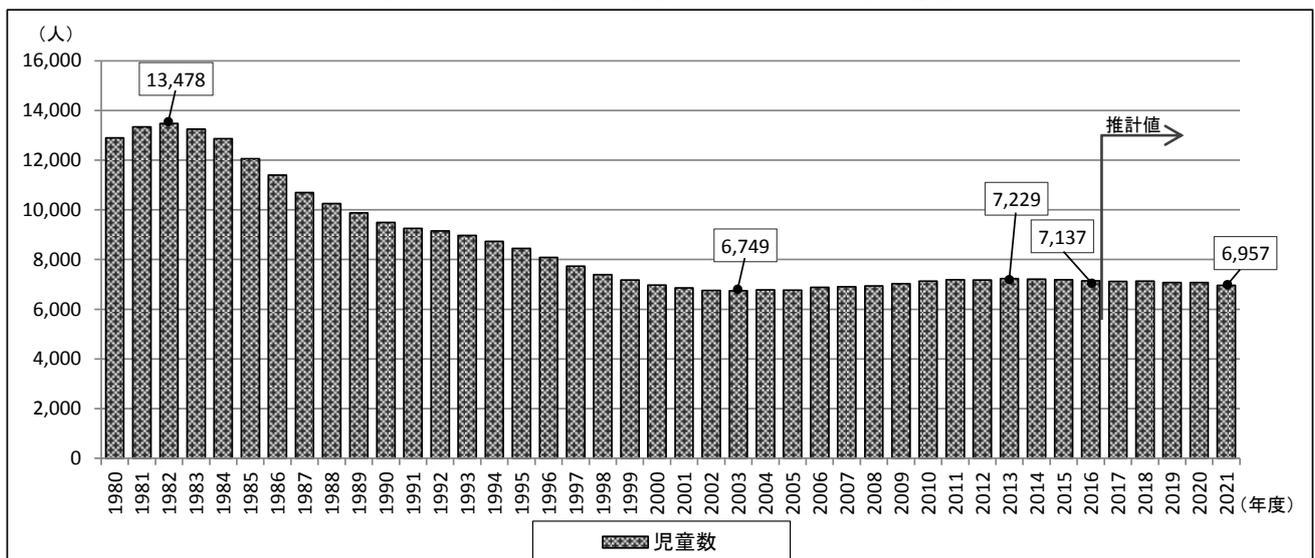
図表2-36 施設の配置状況



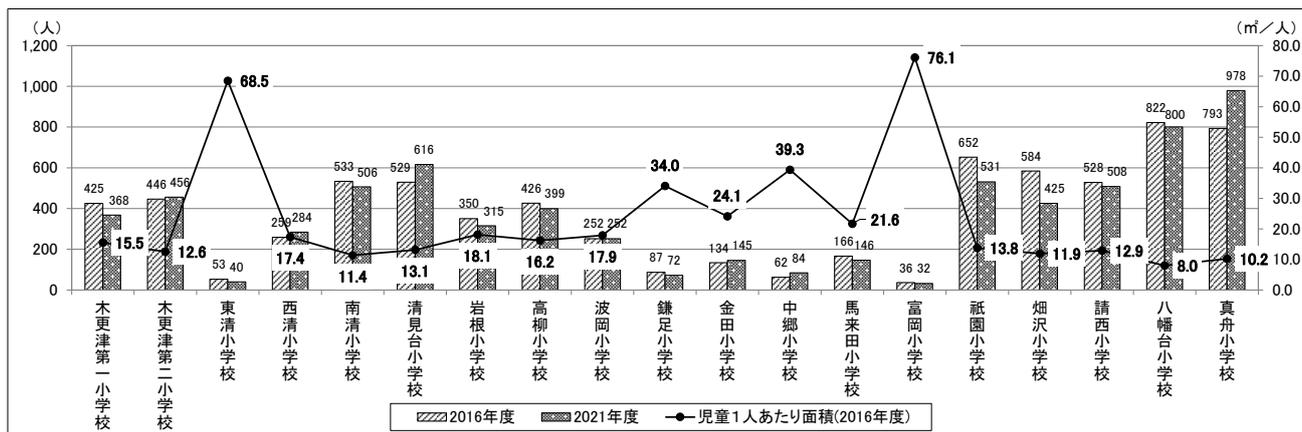
(2) 現状及び課題

- 小学校の適正な規模は、クラス替え、指導の充実などを考慮すると12学級から18学級としておりますが、現状、これを下回る小学校が8校あります。
- 小学校は中期(平成39(2027)年度～平成48(2036)年度)に耐用年数を迎える施設が集中しており、建替えコストが急増するものと見込まれます。
- 中郷小学校は、耐震性能が不足し、老朽化も著しいことから建替え事業を進めています。児童については既に、中郷中学校に仮移転しています。
- 本市の児童数は昭和57(1982)年度の13,478人をピークに、平成15(2003)年度の6,749人で下げ止まった後、微増に転じており、平成25(2013)年度以降は減少傾向が続くものと見込まれています。
- 請西地区の土地区画整理等に伴う児童数の急増に応じ、平成26(2014)年度に真舟小学校を新設し、それに伴い、請西小学校及び木更津第二小学校の通学区域の見直しを行いました。学校規模には地域によってバラつきが生じている状況にあります。
- 東清小学校、鎌足小学校、金田小学校、中郷小学校、馬來田小学校、富岡小学校の6校は、いずれも6学級以下となっています。
- 本市の小学校における児童1人あたりの延床面積は、東清小学校68.5㎡/人、富岡小学校76.1㎡/人となっており、平均値14.5㎡を大幅に上回る状況にあります。
- 現在、金田地区における土地区画整理事業を推進していることから、今後は同地区内での大幅な人口増に転じる可能性があり、今後の児童数の推移を注視する必要があります。

図表 2-37 市立小学校における児童数の推移



図表 2-3 8 小学校別児童数の将来見込み



(3) 今後の方向性

- 各施設の今後の方向性及び再配置に向けた実行プランを、**図表 2-3 9**のとおり設定します。
- 児童数の減少に対応し、統合など保有総量の削減に向けた適正配置を推進します。
- 東清小学校、富岡小学校については、「木更津市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針」で「統合を含めて対応を検討する」とされ、既に統合対象としていることから、統合を実施するものとします。統合により通学距離が長くなる場合については、スクールバスの運行などで対応します。
※木更津市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針は、学校間の教育水準の均衡を保持し、より良い教育環境を整備するため、下記の「木更津市立小中学校適正規模等審議会」へ「木更津市立小学校及び中学校の適正規模及び本市域における適正配置のあり方に関する事項について」諮問し、審議会からの答申を受け、平成23年10月に策定したものです。平成28年11月に、人口急増地域にある真舟請西地区、清川地区の小中学校について、見直しを行っています。
- 将来的に学級数が11学級以下になることが予測される小学校については、「木更津市立小中学校適正規模等審議会」で審議を重ね、地域特性などを考慮しながら、統合を進めるものとします。
※木更津市立小中学校適正規模等審議会は、学識経験者、PTA関係、市政協力員および公募（教育行政に関心がある方）で選んだ方などで構成し、小・中学校の適正な規模及び本市域における適正な配置のあり方について審議する組織です。
- 小学校は児童の教育のための施設ですが、防災、地域の交流の場等、各地域のコミュニティの核としての機能を併せ持つことが求められております。このことから、今後、小学校を建て替える際には、近隣の他用途（公民館等）との積極的な複合化を行います。
- 児童数の減少などにより生じる余裕教室は、学校用途に限定せず他用途に転用するなどし、スペースを最大限に有効活用します。
- 今後の建替えの際は、児童数に応じた規模とします。
- 将来の少子化に備え、容易に多用途に転換（リニューアル）できる建物構造とします。

図表 2-39 再配置実行プラン

施設 No.	施設名	施設面積 (㎡)	短期・中期・長期(2017~2046)	
			基本方針	面積増減 (㎡)
—	小学校 19校	103,388.0	<ul style="list-style-type: none"> ■将来的に学級数が11学級以下の小学校は、統合 ■統合しない学校は築30年目を目安に大規模改修、築60年目を目安に建替え ■中長期的(20年~30年)に統合する学校は築30年目を目安に大規模改修 ■建替えや統合の際は、他用途との複合化を検討 	▲ 24,789.0
面積増減(㎡)				▲ 24,789.0

4-2. 中学校

(1) 施設概要

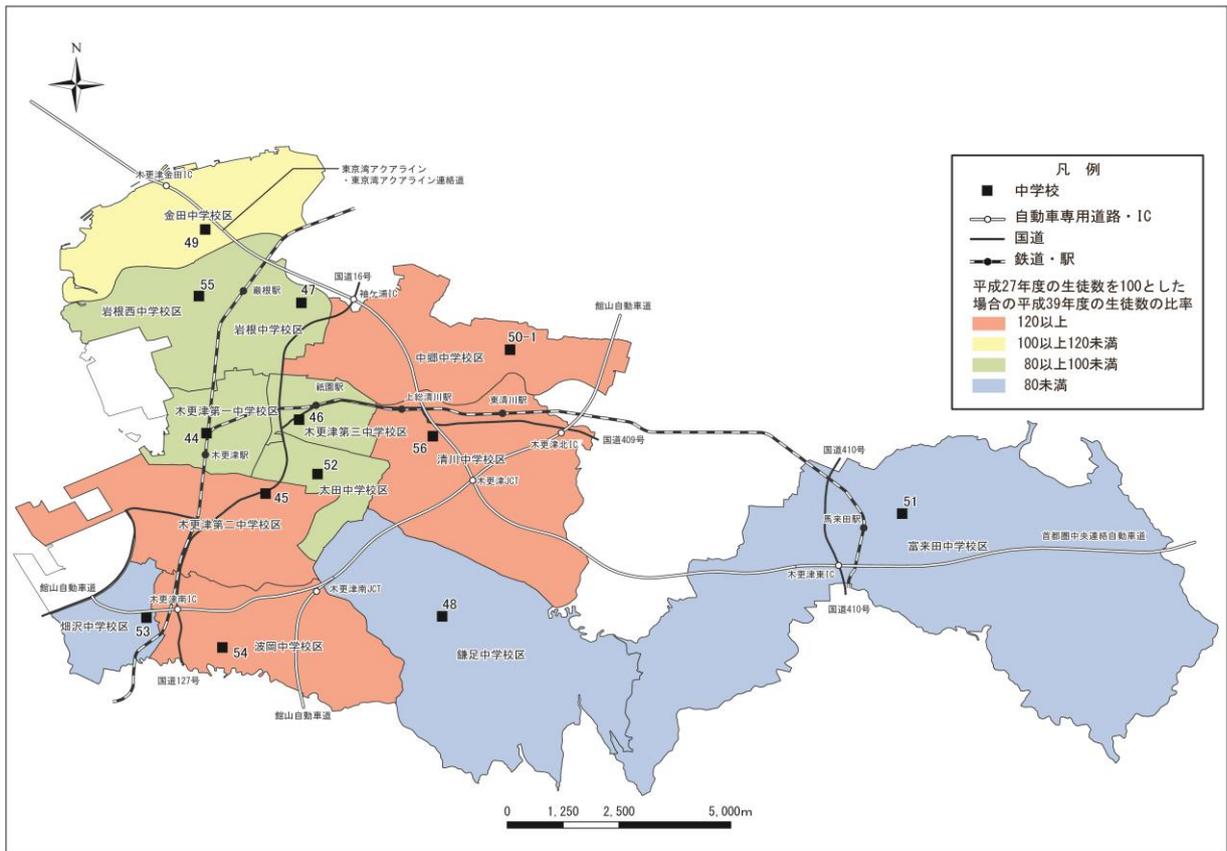
□ 市内には、地区ごとに13校が立地しており、いずれも災害時の避難所に位置づけています。

図表 2-40 中学校の一覧

施設 No.	施設名	所在	避難場所指定	延床面積 (㎡)		竣工年度	築年数 (年)	構造	耐震改修	備考
					施設分					
44	木更津第一中学校	中央1-10-1	避難所	5,650.5	—	1968	48	RC造	実施済	
45	木更津第二中学校	請西941	避難所	5,256.9	—	1971	45	RC造	実施済	
46	木更津第三中学校	永井作1-1-1	避難所	6,187.6	—	2010	6	S造	不要	
47	岩根中学校	高柳3-7-49	避難所	3,346.3	—	1970	46	RC造	実施済	
48	鎌足中学校	矢那2797	避難所	2,741.0	—	1984	32	RC造	不要	
49	金田中学校	中島2820	避難所	2,904.0	—	1965	51	RC造	実施済	
50-1	中郷中学校	有吉932	避難所	3,156.2	—	1965	51	RC造	必要(予定なし)	中郷小学校と併設
50-2	中郷小学校仮設校舎	有吉932	避難所	640.0	—	2013	3	S造	不要	借上
51	富来田中学校	真里谷275	避難所	4,680.3	—	1972	44	RC造	実施済	
52	太田中学校	東太田1-2-1	避難所	5,845.4	—	1977	39	RC造	実施済	
53	畑沢中学校	畑沢1053-1	避難所	4,940.4	—	1980	36	RC造	実施済	
54	波岡中学校	大久保3-9-1	避難所	5,604.0	—	1982	34	RC造	不要	
55	岩根西中学校	久津間337	避難所	4,983.5	—	1982	34	RC造	不要	
56	清川中学校	中尾1096	避難所	4,741.0	—	1984	32	RC造	不要	

※表中の「施設分」は、本項の用途分類で使用する専有面積分のみを掲載しています。

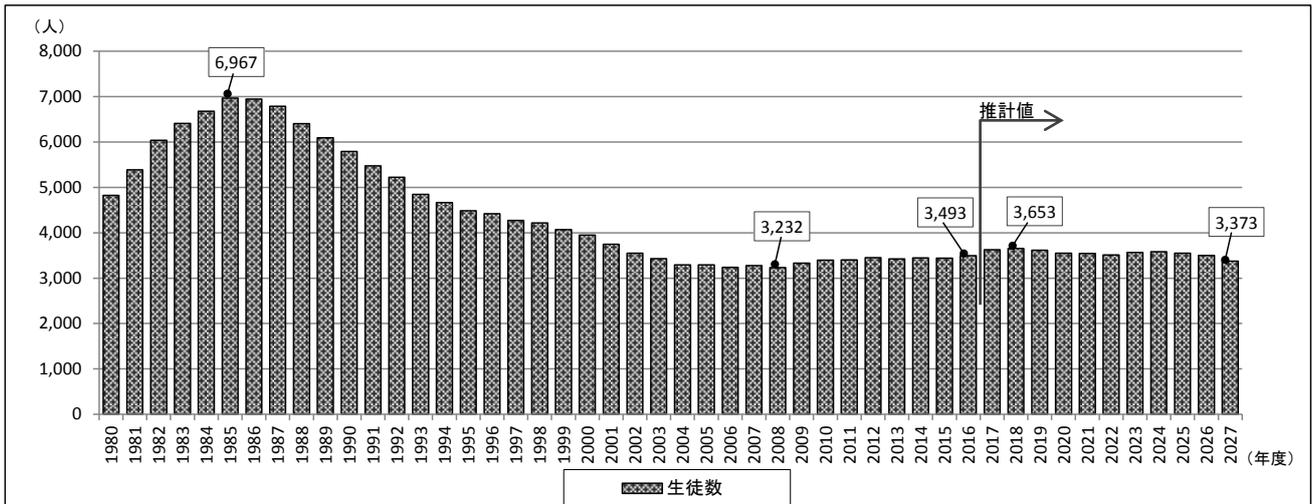
図表 2-4 1 施設の配置状況



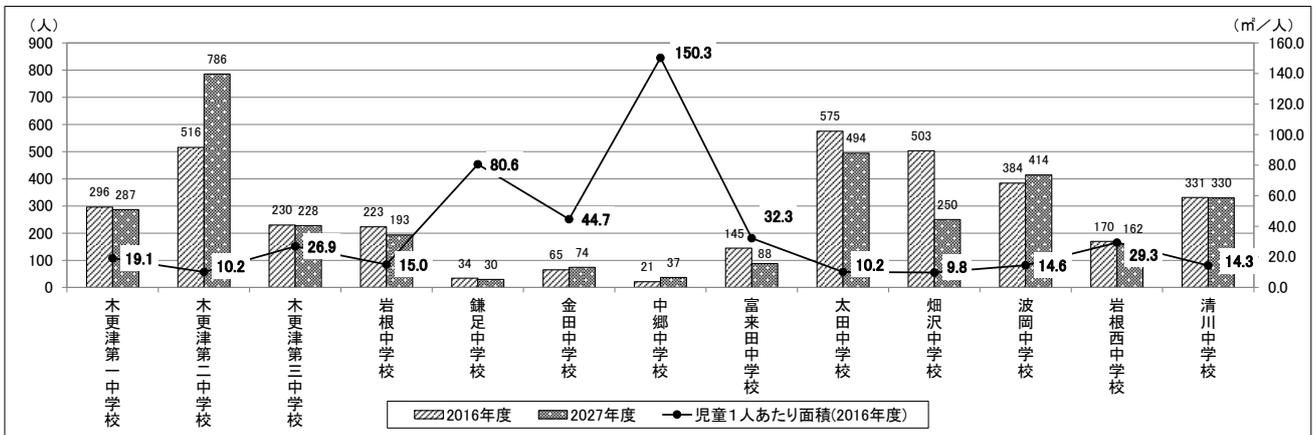
(2) 現状及び課題

- 中学校の適正な規模は、クラス替え、指導の充実、部活動などを考慮すると9学級から18学級としておりますが、現状、これを下回る中学校が6校あります。
- 中学校は中期(平成39(2027)年度～平成48(2036)年度)に耐用年数を迎える施設が集中しており、建替えコストが急増するものと見込まれます。
- 本市の生徒数は、昭和60(1985)年度の6,967人をピークに減少に転じ、平成20(2008)年度に3,232人に下げ止った後、微増に転じています。今後は、平成30(2018)年度までは増加を続けた後、減少傾向に転じると見込まれています。
- 請西地区の土地区画整理等に伴う児童数の急増に応じ、平成26(2014)年度に真舟小学校を新設し、それに伴い、木更津第二中学校と太田中学校の通学区の見直しを行いました。学校規模には地域によってバラつきが生じている状況にあります。
- 鎌足中学校、金田中学校、中郷中学校の3校は、いずれも3学級以下となっています。
- 本市の中学校における生徒1人当たりの床面積は、中郷中学校150.3㎡/人、鎌足中学校80.6㎡/人となっており、平均値17.2㎡を大幅に上回る状況にあります。
- 現在、金田地区における土地区画整理事業を推進していることから、今後は同地区内での大幅な人口増に転じる可能性があり、今後の生徒数の推移を注視する必要があります。

図表 2-4 2 市立中学校の生徒数の推移



図表 2-4 3 中学校別生徒数の将来見込み



(3) 今後の方向性

- 各施設の今後の方向性及び再配置に向けた実行プランを、**図表 2-4 4**のとおり設定します。
- 生徒数の減少に対応し、統合など保有総量の削減に向けた適正配置を推進します。
- 中郷中学校、岩根西中学校については、「木更津市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針」で「統合を含めて対応を検討する」とされ、既に統合対象としていることから、統合を実施するものとします。

※木更津市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針は、学校間の教育水準の均衡を保持し、より良い教育環境を整備するため、下記の「木更津市立小中学校適正規模等審議会」へ「木更津市立小学校及び中学校の適正規模及び本市域における適正配置のあり方に関する事項について」諮問し、審議会からの答申を受け、平成23年10月に策定したものです。平成28年11月に、人口急増地域にある真舟請西地区、清川地区の小中学校について、見直しを行いました。

- 将来的に学級数が8学級以下になることが予測される中学校については、「木更津市立小中学校適正規模等審議会」で審議を重ね、地域特性などを考慮しながら、統合を進めるものとします。

※木更津市立小中学校適正規模等審議会は、学識経験者、PTA関係、市政協力員および公募（教育行政に関心がある方）で選んだ方などで構成し、小・中学校の適正な規模及び本市域における適正な配置のあり方について審議する組織です。

- 中学校は生徒の教育のための施設であります。防災、地域の交流の場等、各地域のコミュニティの核としての機能を併せ持つことが求められております。このことから、今後、中学校を建て替える際には、近隣の他用途（公民館等）との積極的な複合化を行います。
- 生徒数の減少などにより生じる余裕教室は、学校用途に限定せず他用途に転用するなどし、スペースを最大限に有効活用します。
- 今後の建替えの際は、生徒数に応じた規模とします。
- 将来の少子化に備え、容易に多用途に転換（リニューアル）できる建物構造とします。

図表 2-4 4 再配置実行プラン

施設 No.	施設名	施設面積 (㎡)	短期・中期・長期(2017～2046)	
			基本方針	面積増減 (㎡)
—	中学校 13校	60,037.1	<ul style="list-style-type: none"> ■将来的に学級数が8学級以下の中学校は、統合 ■統合しない学校は築30年目を目安に大規模改修、築60年目を目安に建替え ■中長期的(20年～30年)に統合する学校は築30年目を目安に大規模改修 ■建替えや統合の際は、他用途との複合化を検討 	▲ 12,199.5
面積増減(㎡)				▲ 12,199.5

4-3. 小中学校プール

(1) 施設概要

- 学校プールは、市内小中学校の児童生徒の健康推進と体力の向上を図り、併せて水泳技術の習得を目的として、設置しており、期間は毎年6月中旬から8月中旬までとしています。
- 水泳の授業は、小中学校学習指導要領により、体育の授業の一部として実施しています
- 本市においては、小学校の水泳の授業は、小学校体育まるわかりハンドブックに基づき、年間10時間程度、実施しています。
- 木更津第三中学校および中郷中学校はプールを設置していない状況です（小中学校敷地内に適当なプールの設置場所がない場合や、管理上プールの安全確保が困難な場合などは設置していない）。

図表2-45 小中学校プールの一覧

No.	学校名	延床面積 (㎡)	竣工 年度	築年数 (年)	構造	形態	付属施設
1	第一小	375.00	1974	42	アルミ	25m×7コース	便所、更衣室、機械室、倉庫、医務室
2	第二小	375.00	1976	40	アルミ	25m×7コース	便所、更衣室、機械室、倉庫、医務室
3	東清小	375.00	1975	41	アルミ	25m×7コース	便所、更衣室、機械室、倉庫、医務室
4	西清小	375.00	1986	30	FRP	25m×7コース	3階更衣室、機械室
5	南清小	375.00	1999	17	FRP	25m×7コース	便所、更衣室、機械室、倉庫、医務室
6	清見台小	375.00	2014	2	FRP	25m×7コース	便所、更衣室、機械室、倉庫、医務室
7	祇園小	375.00	1979	37	アルミ	25m×7コース	便所、更衣室、機械室、倉庫、医務室
8	岩根小	325.00	1968	48	FRP	25m×6コース	便所、更衣室、機械室、倉庫、医務室
9	高柳小	375.00	1978	38	アルミ	25m×7コース	便所、更衣室、機械室、倉庫、医務室
10	波岡小	375.00	1974	42	アルミ	25m×7コース	便所、更衣室、機械室、倉庫、医務室
11	鎌足小	325.00	1989	27	FRP	25m×6コース	便所、更衣室、機械室、倉庫、医務室
12	金田小	375.00	1980	36	アルミ	25m×7コース	便所、更衣室、機械室、倉庫、医務室
13	中郷小	325.00	1972	44	鋼製	25m×6コース	便所、更衣室、機械室、倉庫、医務室
14	馬來田小	375.00	1985	31	FRP	25m×7コース	便所、更衣室、機械室、倉庫、医務室
15	富岡小	325.00	1970	46	鋼製	25m×6コース	便所、更衣室、機械室、倉庫、医務室
16	畑沢小	375.00	1982	34	FRP	25m×7コース	便所、更衣室、機械室、倉庫、医務室
17	請西小	375.00	1985	31	FRP	25m×7コース	便所、更衣室、機械室、倉庫、医務室
18	八幡台小	375.00	1986	30	FRP	25m×7コース	便所、更衣室、機械室、倉庫、医務室
19	真舟小	375.00	2013	3	FRP	25m×7コース	便所、更衣室、機械室、倉庫、医務室
1	第一中	375.00	1988	28	FRP	25m×7コース	便所、更衣室、機械室、倉庫、医務室
2	第二中	375.00	1968	48	鋼製	25m×7コース	便所、更衣室、機械室、倉庫、医務室
3	第三中		—				
4	岩根中	375.00	1977	39	アルミ	25m×7コース	便所、更衣室、機械室、倉庫、医務室
5	鎌足中	375.00	1987	29	FRP	25m×7コース	便所、更衣室、機械室、倉庫、医務室
6	金田中	375.00	1973	43	アルミ	25m×7コース	便所、更衣室、機械室、倉庫、医務室
7	中郷中		—				
8	富来田中	375.00	1989	27	FRP	25m×7コース	便所、更衣室、機械室、倉庫、医務室
9	太田中	375.00	1983	33	FRP	25m×7コース	便所、更衣室、機械室、倉庫、医務室
10	畑沢中	375.00	1986	30	FRP	25m×7コース	便所、更衣室、機械室、倉庫、医務室
11	岩根西中	375.00	1988	28	FRP	25m×7コース	便所、更衣室、機械室、倉庫、医務室
12	波岡中	375.00	1987	29	FRP	25m×7コース	便所、更衣室、機械室、倉庫、医務室
13	清川中	375.00	1989	27	FRP	25m×7コース	便所、更衣室、機械室、倉庫、医務室

(2) 現状及び課題

- 学校プールは、6割以上が築後30年以上を経過しており老朽化が進行しています。
- 運営面においては、天候や気温による中止、また夏休み期間を考慮すると年間で約20日間程度の使用にとどまっており、有効利用の観点から課題となっています。
- 老朽化した学校プールを今後建替えていった場合の費用は下記のとおりとなっており、多額の費用が必要となることから、今後は「1校1プール」方式を見直すことが必要となっています。
- 仮に建替えて約30年～約40年程度運営した場合は、1億4千万円(参考価格)×30校=42億円となり、光熱水費を入れると100万円(参考価格)×30校×30年(40年)=9億円 合計51億円となります。

(3) 今後の方向性

- 小中学校における「1校1プール」方式は多額の経費が必要であることから、見直します。
- 既存の学校プール等の複数校での利用や年間を通して、既存公共プール(健康増進センター内温水プール)を複数校で利用、また、民間所有のプールを利用して水泳指導を委託する方式などについて検討を進めます(教員は全体的な監視をして児童・生徒の泳力の確認・指導、また、民間の指導員との調整を行う)。

※大学等の研究論文や他自治体の試算によると、一般的にこれら方式は従来の「1校1プール」方式より安価であることが知られています。

4-4. その他学校教育施設

(1) 施設概要

- 「学校給食センター」は、本市初のPFI事業として平成21(2009)年4月から稼働しており、学校給食を給食センターで調理し、6校の小学校と4校の中学校に配食を行っています。その他の学校については、自校親子方式及び自校単独方式のいずれかの提供方式を採用しています。
- 「まなび支援センター」は、教育の充実及び振興並びに青少年の健全育成を図るため設置しています。センターでは、不登校等の課題を抱える児童生徒と保護者、学校関係者を対象とした専門医等による教育相談教室、青少年・子育て相談として電話・来所・メール相談を行っています。また、不登校状態が続いている児童・生徒が通う学校適応指導教室「あさひ学級」を開設しています。

図表2-46 その他学校教育施設の一覧

施設No.	施設名	所在	避難場所指定	延床面積(m ²)		竣工年度	築年数(年)	構造	耐震改修	備考
					施設分					
57	学校給食センター	潮見2-13-1	指定なし	2,524.1	—	2008	8	S造	不要	
58	まなび支援センター	朝日1-8-17	指定なし	778.6	—	1987	29	RC造	不要	

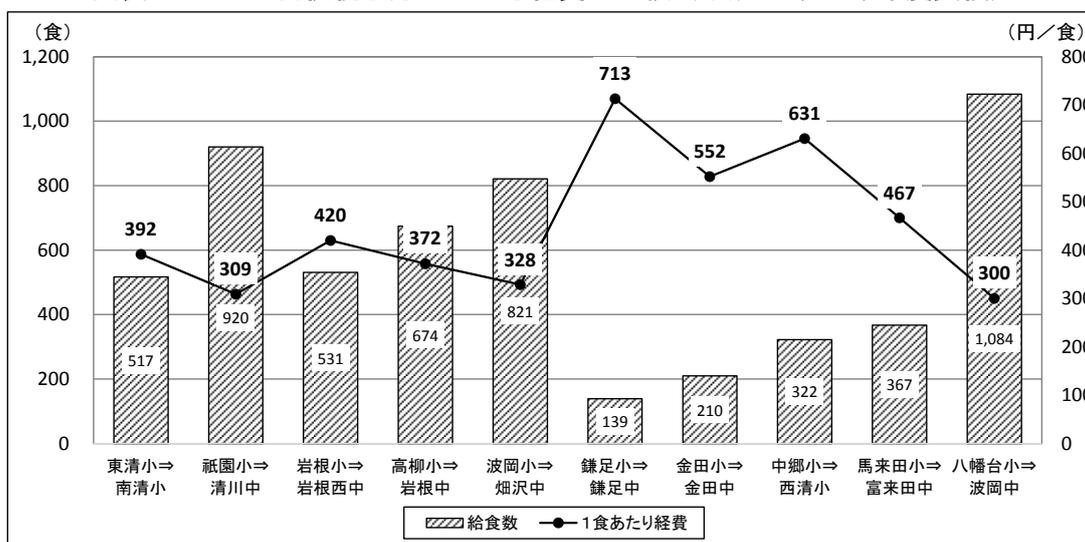
※表中の「施設分」は、本項の用途分類で使用する専有面積分のみを掲載しています。

(2) 現状及び課題

- 現在、小学校・中学校合わせて10校で給食センター方式を採用しており、その他は自校親子方式、自校単独方式の学校給食を採用しています。今後、自校親子方式、自校単独方式は、給食棟の老朽化対策などに多額の費用がかかると見込まれるため、今後の方向性を検討していく必要があります。
- 給食センター方式（10校：4,989食）による給食一食にかかる経費は261円／食となっています。
 - ※1 平成26(2014)年度実績
 - ※2 一食あたり経費は建物の減価償却費などが概算のため実際の経費と若干異なります
 - ※3 上記経費に食材費は含まれていません（食材費は集金した給食費で賄われます）
- 自校親子方式による給食一食にかかる経費は、**図表2-47**のとおりとなっており、給食数に応じて、かかる経費に差が生じています。
- 自校単独方式による給食一食にかかる経費は、富岡小学校で1,598円／食（52食）、中郷中学校で2,801円／食（32食）となっています。
 - ※1 平成26(2014)年度実績
 - ※2 一食あたり経費は建物の減価償却費や光熱水費（検針メータが別になっていないため）などが概算のため実際の経費と若干異なります
 - ※3 上記経費に食材費は含まれていません（食材費は集金した給食費で賄われます）

- 現在、自校親子方式、自校単独方式は、学校給食の献立内容に差異が生じており、同一の質での平等な給食の提供ができていない状況となっています。

図表 2-4 7 自校親子方式による経費の比較（平成 26(2014)年度実績）



- ※ 1 図表の「東清小⇒南清小」は東清小で調理して南清小に配食することを示しています（他校も同様）
- ※ 2 一食あたり経費は建物の減価償却費や光熱水費（検針メータが別になっていないため）などが概算のため実際の経費と若干異なります
- ※ 3 上記経費に食材費は含まれていません（食材費は集金した給食費で賄われます）

- 給食センター方式は、自校親子方式や自校単独方式に比べ調理に要する費用の他、食材を大量に仕入れることができることなどから経費の面で有利となっています。また、アレルギーの対応の専用調理室の確保（自校親子方式及び自校単独方式では経費の面で困難）が可能のため、児童・生徒の安心安全が図れる他、多くの調理員で業務を実施することから、不測の事態における調理員の確保に係る問題の解消が図れます（自校親子方式及び自校単独方式では調理員の確保が困難）。
- まなび支援センターでは、年間 150 件前後の教育相談を実施しています。また、青少年・子育て相談においても年間 120 件前後の電話相談と、20 件前後の来所・メール相談を実施しています。学校適応指導の充実に向けては、「あさひ学級」の相談員の増員を図っており、通級児童生徒数は平成 24(2012)年度の 16 人から、平成 26(2014)年度は 19 人に増えていますが、個別に相談等ができる部屋数の確保が課題となっています。

(3) 今後の方向性

- 各施設の今後の方向性及び再配置に向けた実行プランを、図表 2-4 8 のとおり設定します。
- 今後、新たに第二学校給食センターを整備し、全ての学校で給食センター方式に転換します。自校親子方式及び自校単独方式を採用してきた各学校の給食棟については、第二学校給食センターの稼働後に廃止・解体します。
- まなび支援センターは、今後、他の施設の建替え等のタイミングで機能を移転し、複合化します。その際は事業に必要な面積規模及び部屋数とします。また、施設の性格上、他の用途と動線が交差しない静かで落ち着いた環境が保てるように計画します。

図表2-48 再配置実行プラン

施設 No.	施設名	施設面積 (㎡)	短期(2017~2026)		中期(2027~2036)		長期(2037~2046)	
			基本方針	面積増減 (㎡)	基本方針	面積増減 (㎡)	基本方針	面積増減 (㎡)
57	学校給食センター	2,524.1	■第二給食センターを新規整備	3,500.0			■既存の学校給食センターの大規模改修	
58	まなび支援センター	778.6	■廃止、他の施設の建替えに合わせ機能移転(200㎡)	▲ 578.6				
計		3,302.7	短期(10年)	2,921.4	中期(20年)	0.0	長期(30年)	0.0